



通年コース第二・三回開催報告

「植林・下草刈り、伐木造材」

『育てていくために』

開催二日前に関東甲信越の梅雨入りの発表がありました。雨が、雨天の心配もどこへやら、当日は天候に恵まれて講座が開催できました。

一日目は植林と下草刈り。山火事後の林地を森林塾の演

習林としてお借りして植林と下草刈りを続けてきた下殿島区有林。ところが近年、ニホンシカなど獣の被害が少雨の影響か、ところどころ枯れた植林木があったり、場所によっては数mの空隙が。そこ



根を広げて



林地の傾斜と刃の角度

で今年、そういった場所に三年生のヒノキ苗を植えていただきます。腐植を取り除いて穴を掘ったら、根を切りそろえた苗を挿し土を戻す。苗を軽く上に引っ張りながら根元の土を踏み、落ち葉などを土に被せていく作業となりました。そして下草刈りでは、坪刈り、筋刈りといった方法もありますが、今回は全

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
編集 坂野慎治  
題字 島崎洋路

面を刈ります。手鎌や造林鎌はもちろん刈払機も使って、斜面の傾斜に刃の角度を合わせ、一方通行で刈り払っていきました。  
二日目は伐木造材。午前中はチェーンソーの使い方と受け口の練習。刃が土などに触れないようにしてエンジンを始動して、丸太の輪切りから、下(腹)刃だけで、上(背)刃だけで、また両方を使って回し伐り。その後はチェーンソーを水平や斜めに構える受け口伐りの練習。そして午後、横山のカラマツ林で伐倒です。幹の傾きや枝張り・隣接木との関係から倒す方向を

決め、退避路を確保して受け口を伐り、周囲を確認して、つるを残して追いつ伐り。幹に沿って枝を払い、曲がりを除いて造材をしていただきました。  
二日間の作業、お疲れ様でした。



一定の刈り幅で

通年コース 第二・三回

6月12日(金)

植林・下草刈り

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。

早川講師によるウルシやマダニなどへの注意。

8時50分

日程説明の後、身支度をしてお今日の現場の西春近に向かう。

9時15分

林道に車を止め、トンガヤ手鎌などの植林と下草刈りの道具、ヘルメットなどの装備類を手分けして現地へ。

9時35分

体操をした後、早川講師の

植林方法の説明と実演。長く伸びた根を丸めて穴に押し込まないこと。根の回りに戻す土には、枯葉や枝を混ぜないこと。根の回りは苗を引き上げながら足で踏んで、土を固めておくことなど。

9時45分

植林開始。インスタラクターとOBの方々が、根を切った三年生のヒノキ苗を一本一本丁寧に植えていく。

10時50分

植林を終了し、早川講師による下草刈りの説明。坪刈りや筋刈り、全刈りといった方法の違いと作業の仕方。





まずは、切り下げ



右手の位置はそのままに

11時10分

手鎌や造林鎌を使って下草を刈っていく。

11時55分

豚汁もできたので昼食。

13時

下草刈り再開。インスタラクターとマンツーマンで刈払機を使ってみる。使用時の注意事項や刃の角度、体勢、刈り幅、進行方向などを教わりながら植林木の間を刈り払っていく。

15時05分

作業終了し、機材を片付けて小屋へ戻る。

15時35分

手質疑応答と講師講評の後、ミス水鋼機さんによる山道具の見本市。地下足袋や防振手袋、ナタやチェーンソーなどを見せていただきました。

17時

終了、解散。お疲れ様でした。

6月13日(土)

伐木造材

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明の後、

8時45分

班分け、体操。日程説明の後、小屋近くの旧日影区有林に移動。早川講師によるチェーンソーの構造や使用上の注意事項、始動方法などの説明を受け、

9時

各班に分かれて、エンジン始動の後、まずは丸太の輪切り。下(腹)刃での切り下げ、上(背)刃での切り上げ、そして回し伐り。

10時30分

各班で伐倒方法の説明に続き、受け口伐りの練習を地

11時45分

面に立てた丸太で。水平深さと斜め角度、チェーンソーの構え方と止める位置・体勢：。。

12時40分

小屋へ戻り昼食。伐倒現場の横山キャンプ場へ向かう。

13時

機材を準備して伐倒開始。黄色いテープが巻かれた木を伐倒します。まず幹の傾きや枝張り、隣接木の枝張りを見て倒す方向を決める。次ぎに退避路を確保。そしていよいよ伐倒

16時10分

講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

15時55分

作業を終了。機材を片付けて小屋へ。

16時10分

講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

17時

四日間ともに、8時30分、島崎先生の山小屋集合です。

18時

払いの習熟も平行して。ご希望があれば集材なども可能です。



第四・五回

7月10・11日(金・土)

測量、

測樹・施業診断

次回以降の予定

専門コース 第二回開催

7月1~4日(水~土)

今回は、当初予定に前日一日を加えて四日間の開催となります。前回の基本の復習や牽引伐倒などのステップアップした方法での伐倒に挑戦してみましよう。また、傾斜地での安全確実な造材や枝

に。スタンスを決め受け口を伐り、周囲を確認して直径の十分の一のつるを残して追いつ伐り。枝払いは幹に沿って抉るくらいに。造材は曲がりを取り除いて真っ直ぐに。幹の状態をよく見て。

一日目は、西春近のヒノキ林で測量です。方位角度・傾斜角度・斜距離を測って製図してみます。また、前回山道具を注文された方はこの日引き渡しの予定です。

二日目も初日と同じ現場で測樹と施業診断です。どんな木がどれくらいあるか。太さや高さを測って現在の健康状態や今後の施業計画を立案してみます。

二日間ともに、8時30分、島崎先生の山小屋集合です。関数電卓、分度器、三角定規、文房具をご持参願います。

# リレー通信

## 気ながに森をたのしむ

安部 英夫



### 森へのあこがれ

学校を卒業して以来、大学という職場に籍をおき、三十七年間事務職員としての生活をしてきた。それも今年三月定年を迎え、今は雇用延長の身として働いている。

私は愛知県の三河湾に面した碧南市という人口七万人を超える街に住んでいる。昔は、白砂青松の美しい海岸を持つ漁業と避暑の土地だったそう。今は、農業と三河一円の一大自動車産業集積地の一翼をなしている市となって



いる。十年前に移り住んだ街は、三河湾に面した温暖な地ではあるが、寺社や学校はともかく、緑には乏しいところでもある。

もともと生まれは群馬であり、遠近の山容と田の緑に囲まれた所で、高校生の時には、山歩きを日常としていた。真夏の青々とした木々や秋の紅葉の山での感動は、今でも思い浮かべることが出来る。しかし、職についてから

この方、スキーや数度の高山に向かう事はあったが、それも遠ざかって久しくなる。それがこの年になり、昔馴染んでいた内陸部の植生と現在の海に接するそれとに違和感を感じ、フツフツと山のある風景の中で過ごしたいと思うようになってきた。

四年前、三河湾の浄化、きれいな水の流れを取り戻すための矢作川源流の山の手入れを行うNPO組織の活動に参加をした。川の流れば細くならず、急速な都市化の進行による生活排水等の流入で海の水は汚れ、飲み水はどこもなくうまくない。この水源の山を守るために、人工林のスギを伐採し、その山が持つ本来の

木々 落葉広葉樹に植え代える林層転換を目指す活動である。保水力のある山に代え、多様な生物が住みつく生きた山にしようという遠大な計画である。ささやかではあるが地球環境や自然災害の防止にも役立つことであり、何よりもきれいな環境、多くの人間が癒しの自然を享受できる。そんなことをこのNPOは謳っていた。ところが残念なことこの活動に参加して間もなく、二度の入院と手術に見舞われることになり、この活動からも遠ざかるを得なくなってしまった。

### 落葉広葉樹の森へ

疾患は大事には至らず、その後人並みに体を動かすことが出来るようになってきた。人間は勝手なもので、健康を取り戻し、また、定年で机に縛り付けられていた生活から抜け出せる可能性を知った途端、太陽とともに起き、自然とともに生き、暑いときは暑く、寒いときは寒い、そして太陽が沈めば、寝床に入る、そんな夢みだいな生活がしたくなってきた。それはここ三河湾に面したこの街ではないのではと思うようになってきた。ウチには、今、就学期の小さな子どもが三人いる。この子たちにとって、効率が優先する社会の中で、不便ではあるが森に暮らし、自然の

移ろいを肌で感じられる生活をさせてやりたいと(私は勝手に)思っている。

幸いにして、妻もまた子どもたちもその様な不便を強いられる山での生活に前向きではある。妻は寒さと私の夢への幾ばくかの不安を抱きつつも、モノ言わぬ自然相手の方が得意な性格もあり、山地への転居を苦とせず、むしろ信念を持って新生活への条件整備に余念がない。

そんなこんなの中、今年、ついに長野県原村の文字通り千百メートル近い森への移住を決意した。

### 気ながな計画で森を楽しむ

敷地にはカラマツを中心に、アオダモ、シラカバ、ハシノキ、サクラ、ウリハダカエデ等があり、長く手入れされてこなかったために地面はササで蔽われていた。カラマツは、春先の新緑や黄葉も大変美しいのだが、落葉の堆積で他の植物の成長が妨げられ、また数が多いのと倒木の危険性もあり、伐採することにした。原村は寒冷地であるので冬は日照を確保でき、夏は木陰をつくれる多種の植物が共生する木々の森にしたいと考えている。前々より緑と紅葉が映えるいろいろな落葉広葉樹を身近に植えたいと思っていた。問題は地下茎も含むササの退治を必要として

いる。現在、この解決方法を模索中であるのと大量に伐採したカラマツとの格闘に家族総出で取組んでいる。

畑違いの世界に身をおいていたので、とにかく植生や森づくりの知識がない。育て方を知らない。幸いわが妻が、浜田久美子さんの本をひも解く中で、「森林塾」の活動を発見し、森との多様な生活のイロハを教えていただけの事を知った。無知な私にとっては願ってもない内容となっていた。

# リレー通信

## 「森から家へ 森林塾からのご縁」

牛尾 出美



二〇〇八年十一月の集中コースを受講、今年は通常コースを受講させていただきました。牛尾出美です。東京で、いい住まいの設計舎という設計事務所を自営しております。独立したのが、二〇〇五年の十一月。ちょうど三年目という節目の年に、ご縁があつて森林塾に参加させていただきました。私には、今は東京に暮らし、東京で家づくりの仕事をしてい

る。早速、申し込みをした次第である。

森林塾での学びをスタートに、三河の森で出来なかったことを新しい地で一歩踏み出したいと願っている。そして次にも可能であれば、多くの子どもたちに森での生活、森での一年を体験させたいとも思っている。そんな夢ばかりを描いている。

講師の諸先生、仲間の皆さん、是非、いろいろと教えてください。

ですが、実は、山も木も身近にあつた子供時代を送っていました。実家は製材所で、ひいおじいちゃんが木曳き、祖父の代で機械を入れて製材業を始めたと聞いています。おじいちゃん子だった私は、どこへ行くにもついて行つたように、山での伐採作業で衣服の写真にも一緒に写っています。余談ですが、私の旧姓は「坪木」といいます。土地を表す「坪」という字に、材木の「木」。建築向きの名前だねとよく言われました。確かに、子供の頃から木や建築に対しては何かしらのご縁があると感じて育ちました。

だからというわけではないのですが、建築の学校を出て、ゼネコンを経て、住宅会社に転職しました。小さな会社でしたので設計、現場監督、営業、資材の仕入れ交渉



など一通りのことを全て経験させてもらいました。私が居たのは一九九七年からの八年間ですが、今思い返すと住宅業界が大きく変わった時期に重なります。構造計算による木造三階建てが可能になり、大工さんの手刻みが機械に変わり、あつという間に外材とプレカットが浸透していきました。そして経済はデフレ。モノが安くなり住宅業界にもローコストの家が回り始め競争が激化。とにかく何事も「早く・安く・勿論クレームなく」この三拍子が、家の仕様を決める暗黙の基準になっていました。私が居た会社でも、競争に残るために、二丁ズがあるものは何でも取り入れていき急成長しましたが、時代の変化に振り回され翻弄させられたサラリーマン建築士でした。

猛烈に仕事をしていた頃、あるテレビ番組で日本への輸出のために丸裸になっていくロシアがカナダの山の姿を観たとき、なぜか涙が止まらなくなりました。ちょっとしたことがありました。ちょうどその頃、急成長ゆえの無理や矛盾が会社にも出始めて、クレームが多発。その処理に追われるなかで、何か家づくりの本質が狂っているのではないかと強く感じるようになったので、様々な出来事が重なって、それまでの会社員としての家づくり、住宅業界に対しての疑問が自分のなかで消化できなくなっていました。結果、身体を壊し手術をきっかけに会社を辞めたのですが、ネガティブな業界の側面とお客様との家づくりの真の楽しさ、この両極面をドップリ体験したのは本当に良い経験であり、財産だったと今は感謝しています。

くなくなったことがありましたが、急成長ゆえの無理や矛盾が会社にも出始めて、クレームが多発。その処理に追われるなかで、何か家づくりの本質が狂っているのではないかと強く感じるようになったので、様々な出来事が重なって、それまでの会社員としての家づくり、住宅業界に対しての疑問が自分のなかで消化できなくなっていました。結果、身体を壊し手術をきっかけに会社を辞めたのですが、ネガティブな業界の側面とお客様との家づくりの真の楽しさ、この両極面をドップリ体験したのは本当に良い経験であり、財産だったと今は感謝しています。

辞めてから、まず本物の家づくりを知らなければいけないと思い、色々な場所に学びに出向きました。近山スクール東京という、木の家を基本から学べる講座に参加して国産材をつかった家づくりのことを様々な角度から学びました。そこで沢山の出会いがありました。鳥崎先生の教え子である素材生産者の原薫さん、森林塾OBで建築家の竹内恵子さん、竹内さんから「ご自身が手掛けた家を見学させてもらい、山仕事を学べるKOA森林塾のことも教えていただいたのです。竹内さんの家づくりと暮らしては、「これぞ近山...」！ 近くの自然の恵みを活かし周りと調和した家づくりを実践している姿に、本当に感動しました。そして森に入ることで、自然に入ることの楽しさを感じさせてくれたのです。それがきっかけで集中コースに参加しました。あと竹内さんから、ますみの森で講座を開いていた浜田久美子さんとの縁もいただきました。浜田さんの活動を知り、著書「森がくれる心とからだ」に出会えたことで、更に森に入りたくて強く思い、今年の通年コースを受講することにしたのです。



山のこと、木のこと、机上では学んでいるつもりでしたが、実際に山に入ったことがない私にとって、実際の山仕事を学べる森林塾に、大きく心を動かされました。勿論不安もありましたし、参加することを周囲に伝えると、何かの役に立つのか？との声もありましたが、実際に山に入ったことがない私にとって、実際の山仕事を学べる森林塾に、大きく心を動かされました。勿論不安もありましたし、参加することを周囲に伝えると、何かの役に立つのか？との声もありました。

りましたが、参加して本当に良かったです。一緒に暮らした参加者の皆さんの意識の高さ、そして作業を通して得られた皆さんとの連帯感も素晴らしいです。あと自然の中では頭より先に感覚で身体が動く...そんな気持ちよさを体感できたことが驚きでした。でも普段の運動不足が祟り先生方にはお世話かけました。が...やはり自分自身で現場を知ることが、現場での声を聞くことが何より力になると感じました。

都会にいと、見えないこと(林業の現状など)には目をそらして安穩と暮らすこともできます。また自分の都合を言い訳にして傲慢な経済活動の一端を担ってしまうことも容易にできます。伊那という土地での暮らしに強く惹かれる私も居ますが、今の私の居場所である東京という都会に居ながら、森を活かすことを、家づくりを通して実践していくことが出来たらと思っています。

### 樹のニラム

「おみね楓」

落葉広葉樹 楓科 楓属

百種類はあると言われる楓ですが、楓の中でもこのこみ



ね楓は葉の形がとて特徴的で、私の一番好きな樹です。その葉の形ですが、中央の裂片が菱形にくびれ、葉先は尾状に長く伸びるのが、この樹の葉の一番の見分ける点です。葉の縁の鋸歯は個体によって切れ込み方がさまざま、まるで雪の結晶のように見えます。この鋸歯の切れ込みのおもしろさが、私を夢中にさせる理由のようです。

山でこみね楓を見つけたら、必ず観察して切れ込み方の違う葉を採取して、標本を作っては眺めて楽しんでいきます。このこみね楓に似た樹に、みね楓があり、こちらのほうは中央の裂片の切れ込みが浅く、葉先は尾状に長く伸びないことが見分ける点になります。

又、こみね楓は、比較的平地の山でも見つけやすいのですが、みね楓はやや標高の高い所に生えるようです。以前、わりと標高の高い現場で作業しているときに、胸高直径が十五〜二十センチくらいはあったりっぱな、みね楓を見ることがあります。ちょうど

今頃の時期に出会い、秋の紅葉は残念ながら見ることは出来ませんでした。さぞみこだったのではないかと思います。

こみね楓の花は六月〜七月で、下に垂れ下がって総状花が咲き、花数は二十個〜三十個つきます。みね楓は上向きに咲き、花数は五個〜十個ほどしか付かないので、それが花時の見分ける点になります。花はそれぞれに印象的な色や形、香りを添えて咲くので、覚えやすく、見分けるのも容易なのですが、葉っぱだけで見えるのは、良く似た葉もあり、なかなか見分けるのも難しいものです。一種類の葉だけを追跡して、調べていくのもちょっとおもしろいかなんて思っています。

「鶯」

### おわりに

春の雨と夏の太陽。梅雨は二つの季節を併せ持つのが。雨が降ると肌寒いような信州の六月です。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994



E-mail:  
sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp